

ポルト市（世界遺産にも指定されているポルト歴史地区の街並み）

首都リスボンに次ぐ第2の都市であるポルト市は、長崎市と姉妹都市提携を結び今年で40周年を迎えます。大航海時代の拠点として発展した同市は現在でもポルトガル北部の中心地であるとともに、ポルトガルの国名もこの地に由来します。特産品であるポルトワインも有名です。写真は「ポルト歴史地区」としてユネスコの世界遺産に指定されている街並みで、クレリゴス教会、大聖堂、ポルサ宮、聖フランシスコ教会などの見どころが集中しています。



世界の地域から

© Miguel Nogueira

ポルト市とアヴェイロ市（ポルトガル）

写真：アヴェイロ市提供



アヴェイロ市（中央運河）

大分市と今年で姉妹都市提携40周年を迎えるアヴェイロ市は、ポルトガル中部に位置し、大西洋岸に面した漁港を有しています。入り組んだ「潟」が内陸に大きく食い込み、天然の良港として繁栄してきました。潟でとれる海藻による肥料が埋め立て地を肥沃にしたことから、漁業のほかに酪農も盛んです。写真は市の中央部を流れる中央運河で、運河には肥料用の海藻を集めるモリセイロと呼ばれる極彩色の絵で美しく飾られた船が浮かび、「ポルトガルのヴェニス」とも呼ばれています。